

## 2022年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q：1Q実績は売上高、利益ともに、堅調と思うが、2Q以降はどのように推移すると想定しているか？

A：トヨタ生産台数1Qの実績は75万台であった。2Qは85万台という前提で予測している。下期の生産はさらに回復する前提にしているが、リスク要因を織り込み、若干堅めの数字となっている。バルブ事業も、グローバルの生産が見通しづらいため、やや堅めで見ているが、状況がわかり次第、修正していきたい。

Q：トヨタが夏に予定している生産一時停止は反映しているか？

A：足元においては、半導体の影響や、東南アジアでのコロナ影響に伴う生産停止など、日ごとに情報が入ってきており、ある程度のリスクは見ているものの、全てを織り込んでいるわけではない。

Q：トヨタが発表している今期の計画に対しては、多少上振れてきているという理解でよいか？

A：当社前提は最新の情報を見つつ、ある程度、予想を織り込んだ数字としている。予想どおりにいかかは不透明な状況にあるが、年間で通して考えれば回復基調にあるのは間違いないと考えており、生産体制を日々見直しながら、効率的な運営に努めていく。

Q：材料価格について、何が影響してくるのか？また予約はしているか？

A：バルブに黄銅価格の影響がある。特に予約は入れておらず、市場の価格で購入している。

Q：バルブ事業について、1Qの営業利益率が14%と高い水準を維持しているが、通期では12.8%と下がる計画としている。季節性や変化点があれば教えてほしい。

A：バルブ事業では為替の影響を多く受ける。1Qの実績で為替は110円/\$であり、2Qも110円で予想しているが、3Q以降は105円と予想しており、マイナス影響が出ている。他には、黄銅価格が高くなってきており、影響があると予想している。また、バルブ事業は、トヨタ以外のビジネスもあり、グローバルの市場回復を若干弱含みで見ている。

Q：通期計画について、期初に経費や、原材料費、値引きが今期の利益圧迫要因として大きいという説明があったが、計画修正後の利益増減要因分析を期初予想と比較すると2Q以降、変動があまりないように見える。販売物量増加分の限界利益が増え、固定費はあまり増えないように抑制することで、利益が残るという考え方でよいか？

A：そのとおりである。経費については、物量の増加による増加分も抑制し、販売の値引き影響、材料高影響については、当初の想定内での動きになっており、大きな差にはなっていない。

Q：バルブセグメントについて、1Q 実績が良く、通期計画も上方修正している中で、従来からあるバルブ事業と、TPMS、シュレーダーが、それぞれどういう動きをしているか解説してほしい。

A：タイヤバルブ、制御機器事業、またシュレーダーの事業については大きく変化しないとみているが、TPMS が、販売面の値下げ抑制や、原価改善を進めた効果で収益性が向上し、利益を押し上げてくると予想している。

Q：TPMS は、C タイプから E タイプへの切替えは計画通り進んでいるが、E タイプの収益性改善が進んで、C タイプ並みの利益率が確保できているということか？

A：そのとおりである。

Q：増減益要因について、期初と比較して通期の販売価格のマイナスが 2 億増えている背景は？

A：スクラップ価格が上がっており、その影響が翌期に売価に反映されるため、下期からマイナス影響が大きくなると予想している。

以上